

1・6 調査結果に対する外部評価

当所の調査研究について、外部の意見を聞くことにより県民ニーズに合致した効率的・効果的な業務の遂行とその透明性の確保を図るため、外部評価委員会による評価を行った。

- 1 開催日
平成29年10月23日
- 2 委員
学識経験者等5名
- 3 評価対象
成果評価（調査研究の目的の達成度、行政施策への寄与度等）を評価）・・・なし
中間評価（調査研究の進捗状況、継続の妥当性等）を評価）・・・1件
計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等）を評価）・・・2件
- 4 評価方法
項目別評価、総合評価とも次の5段階で評価する。
5：非常に高く評価できる。
4：高く評価できる。
3：評価できる。
2：あまり評価できない。
1：評価できない。
- 5 評価結果

【1】計画評価

(1) 調査研究課題	
動物由来感染症病原体保有状況調査（H30～H32）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の適切性・妥当性	4
②研究体制、研究内容の適切性・妥当性	4
③衛生行政・環境行政施策への寄与度	5
④学術的意義又は技術開発への寄与度	5
⑤県民ニーズへの対応状況	5
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
<p>○研究目的の適切性、妥当性は理解できるが、性格の異なる保護動物とジビエ（野生動物）について計画が不明確であることから、研究目的、切り口、どういう成果が得られるのか等を整理する必要がある。</p> <p>○野生動物については多剤耐性サルモネラ菌の分離率が低いと思われ、一方、保護動物に関しては、猫ひっかき病など重篤化する病原菌についても対象に加えるなど対象菌種を検討した方が良い。</p> <p>○県では、学術的には、これまでやったことのない研究であり、疫学的なデータがあまりないことから、今後、何がどうい菌を保有し、どのように伝播していくのか明らかにしていく上で意義のある研究である。</p> <p>○環境面でもイノシシやシカの被害は深刻であり、ジビエ料理を盛んにする意味からも県民ニーズは高いが、研究結果の公表に当たっては、関係機関とも連携し、不安をあおるのではなく、正確な情報を処理業者や料理人を含め伝える必要がある。</p>	

【2】計画評価

(1) 調査研究課題	
S F E - G C / M S / M Sによる農産物中農薬の一斉分析法に関する研究 (H 3 0 ~ H 3 1)	
(2) 項目別評価	
①研究目的の適切性・妥当性	5
②研究体制、研究内容の適切性・妥当性	5
③衛生行政・環境行政施策への寄与度	5
④学術的意義又は技術開発への寄与度	5
⑤県民ニーズへの対応状況	5
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
<p>○研究目的、内容としては今回の研究によりコストや労力の軽減を図ることが可能となり、また、これまでの実績や蓄積したデータにより実現可能性も高く適当である。</p> <p>○環境面では有機溶媒を使わなくて済むという面でも優れており、また、農政に関してもポジティブに捉え、きちんとした農薬の使用を提案できるという期待度は大きい。</p> <p>○学術的には、S F E (超臨界流体抽出法) はそれほど普及しているものではなく、公定法のように全国の研究機関で使えるものではないが、これまで技術開発で前例がなく、微量の物質を検出できるということであれば、他の農薬や中毒物質にも応用できる。</p> <p>○農政部門とも連携し、農業従事者等にも研究成果をきちんと伝え、ブランドとしての熊本県産が安全であるということアピールしていくことが必要。</p>	

【3】中間評価(計画変更)

(1) 調査研究課題	
S F T S ウイルスの生態学的研究	
(2) 項目別評価	
①研究目的の進捗状況	4
②研究体制及び研究内容変更の必要性	5
③研究継続の妥当性	5
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
<p>○熊本地震の影響もあり、調査が遅れたということもあるが、S F T Sは死亡例もあり、予後が悪いというイメージがあることから重要な研究であると考えている。</p> <p>○例数が少ないことから、今後とも研究を継続し、他県とも連携しデータを蓄積していくことが必要。</p> <p>○媒介となるマダニは動物にも付着しているという認識を持っている者は少ないと思われることから、正しい情報を提供し、どのように分布しているのか認識させることが必要。</p>	